

Think of Next

CSR報告書

Vol.12 2024



特集

世代を超えた変化へのチャレンジ

トピックス、数字で見る中特グループ、CSR7つの中核課題



■中特グループ スローガン&ロゴマーク■

まちと未来をキレイにする仕事。



企業理念

使命

「私たちは生活環境革命で人々を幸せにします」

基本姿勢

1. 私たちは、私たちを取り巻く全ての人々に誠実に接します
2. 私たちは、時代の風向きに敏感に反応し、いかなる時代が来ようとも存続します
3. 私たちは、共に地球に暮らす一員として、社会のために役立つ存在となります

行動指針

1. 明るく元気に
2. 迅速丁寧
3. 目配り気配り思いやり
4. ピンチはチャンスプラス思考

目指すポジションNo.1

- 社員の幸せNo.1
- お客様の満足No.1
- 社会に貢献No.1
- 未来の創造No.1

■グループ各社スローガン■

<中国特殊株式会社> <株式会社藤井興業>

水まわりで、地域まわり。

<株式会社吉本興業>

スマイルアップ、クリーンアップ。

<株式会社リライフ>

捨てられたモノに、いのちを。

<株式会社ポータルハートサービス>

思い出も整理する。



ISO26000 7つの中核課題



編集方針

中特グループのCSR / CSVの取り組み、事業、その他の活動をステークホルダーの皆様へご報告する様に編集しています。ホームページ等でも開示していますのであわせてご覧ください。作成にあたっては環境報告ガイドライン、ISO26000、及び国連持続可能な開発目標 (SDGs) を参考にしました。

対象期間 2023年10月～2024年9月 (一部対象期間外)

目次

世代を超えた変化へのチャレンジ	3	8
トピックス	9	12
数字で見る中特グループ	13	16
環境のために	17	18
地域社会とともに	19	20
お客様とともに	21	22
社員とともに	23	24
事故災害ゼロをめざして	25	28
第三者意見	29	29
公正な事業と組織運営のために	30	30

環境
 コミュニティへの参画
 およびコミュニティの発展
 公正な事業慣行
 労働慣行・人権
 組織統治
 公正な事業慣行

世代を超えた変化へのチャレンジ



出席者（座談会メンバー）

橋本 ふくみ：中特グループ CEO

川本 文吾：中国特殊(株) エコ事業部 取締役事業部長

廣瀬 光雄：(株)リライフ リサイクル事業部 部長代理

藤堂 明日香：(株)リライフ リサイクル事業部 マネジメントグループ

井上 稔朗：(株)吉本興業 環境事業部 スマイルグループ マイスター（一般廃棄物の収集運搬）

河村 久美：(株)吉本興業 環境事業部 マネジメントグループ

末次 翔：(株)中特ホールディングス CS 営業部 CS 営業グループ

西嶋 辰繕：中国特殊(株) エコ事業部 HOS グループ（浄化槽の点検・管理）

花川 佳紀：(株)吉本興業 環境事業部 マネジメントグループ

聞き手：林 美咲：(株)中特ホールディングス 未来創造部 未来創造グループ（企画広報）



橋本…『しらバブ世代』
しらけ世代とバブル世代のちょうど間だと判明

世代を超えた変化へのチャレンジ

プロローグ

橋本 中特グループは2025年2月に創立60周年を迎えます。そこで、今回は勤続年数の長い方と短い方に集まっていただきました。様々な世代の方が集まりましたので、社内の変化に加え、世代間の違いや世の中の変化について対談できればと思います。

入社した時と変わったと感
じることは？

安全で働きやすい環境に変化した

林 さつそくですが、入社した時と変わったと感することは何ですか？

井上 まず、(株)吉本興業の車両のカラーがインディアンレッドから白色に変わったことが大きいです。また、今は研修が増えて社内知識をつける場が多くなったと思います。ルールも整備されて、昔はパッカー車のテールゲートを開けたまま回収して移動していましたが、今はテールゲートを閉めて移動するルールになっています。その頃は助手が後ろに乗って移動していました。

西嶋 そうなんです！後ろに乗って移動していたというのは信じられないですね。

橋本 社内的にもルールが変わりましたが、それ以前に法律もどんどん変わりましたよね。私が自動車免許を取ったとき、シートベルトの取り締まりはなくほとんどの人がして

いませんでした。でも、今やそんなことは信じられないですよ。

川本 飲酒運転の取り締まりも今ほど厳しくなく、アルコールをチェックする機械もなかったの、目をつむって一本の線をまっすぐ歩けるかなどで警察官の方が判断していました。今の方が安全面に厳格になりました。

廣瀬 昔は安全帯をつけている方が珍しかったですが、今は必須というのが常識です。『怪我と弁当は自分持ち』という言葉があり、怪我を

したら自分が悪いという考えでした。

橋本 高度経済成長期ということもあり、安全よりも効率が優先されていたような時代でしたね。

河村 会社の人数と女性の割合が変わったと思います。昔は事務員が女性で現場の方は男性でしたが、現場で働く方の中にも女性が増えました。また、私が入社した時には事務所にパソコンが1台しかなく、請求書も手書きの物が結構ありました。郵送ではなくデータで請求書を送るのが当たり前の時代になってきて進化したと感じます。

橋本 近年はハラスメントに対する見方も変わりましたね。今年度は基本方針書にハラスメント防止に関する方針を追加しました。コミュニケーションにおいてどこまでがハラスメントになるのかという線引きは非常に難しいですが、安全で快適な環境づくりのために取り組んでいく必要があります。



廣瀬…『氷河期世代』
当時は残業、休日出勤に対して違和感ゼロ



藤堂…『ゆとり世代』
土曜日は学校が休みになった

世の中全体で変化を感じる」とは？

ITツールで移動も業務も便利になった

林 世の中全体で変化を感じることはなんですか？

廣瀬 お客様のところへ行くときはまずタウンページで住所を見た後、地図を見ながら運転していくのが当たり前前で、今のように検索してナビを使うことはありませんでした。情報が容易に取得できるというのがすごく助かっていますね。



林…『Z世代』
SNSの普及によってテレビ離れが進んだ

藤堂 私は学生の頃からパソコンが普及していたのでタウンページを開いたことはありませんでしたが、当時流行っていたプロフィール帳で電話番号を調べていましたね。直接会いに行くことが多かったので、人と人とのつながりが今よりはあったと思います。

林 社内的には申請などがオンラインで行えるシステムのJugad（ジュガール）やLINEWORKS、KING OF TIMEといったITツールを使用するようになりましたが、いかがですか？

川本 すごく便利になりましたね。最初は覚えるのに時間がかかりましたが、昔は全て紙でしたからね。

河村 同じ業務でもツールが変わると全く違うものになったと感じます。ドキドキしながら手探りで「ここは触つたらまずいかな」というところ以外をとりあえず押してみています(笑)

橋本 これからも変化は永遠に続きますので、少々のことではびつくりしないことが肝心ですね。

年齢の離れた社員と交流する時に気をつけていることは？

大切なのは互いにリスpekトの気持ちを持つこと

林 年齢の離れた社員と交流する時に気をつけていることはありますか？

末次 私はちょうど世代としては中間になります。上の方に対してはもちろん尊敬を持って接していますし、下の世代の方に対しても自分に



河村…『氷河期世代』
友達の家に電話をすると親が出て呼び出してもらっていた

はない感性や考え方を持っている人が多いなど感じているので、リスpekトを持って接するようにした方がイキイキと接してくれるように感じられます。

河村 私は分からないことがあれば何でも聞いてねと伝えていきます。また、聞いてもらえばかりではなく、今の人たちが詳しいことは逆に教えてもらってコミュニケーションを取るようにしています。

林 リライフにも最近若い社員が



西嶋…『Z世代』
SNSやメッセージアプリなどによる、
人との関わり方の多様化、簡易化

入社しましたが、いかがですか？

廣瀬 年齢で対応を変えていないので、自分とは違う考えがあっても「そういう考えもあるよね」という感じで、その人の考えとして受け止めています。

西嶋 HOSグループは平均年齢が高いので最初は戸惑いましたが、フレンドリーな方が多いのであまり固くなりすぎないように仲良くしています。

橋本 年代が上の方のいい部分、下の方のいい部分、それぞれあると思

います。生まれた背景や時代、環境によつて得意分野も考え方も違う中で、それらが融合して補い合えるといいと思います。

ジェネレーションギャップを感じる瞬間は？

世代ごとのコミュニケーションスタイルや価値観の違いをどう受け入れるか

林 世代間交流の中でよく出てくるワードが『ジェネレーションギャップ』なのですが、ジェネレーションギャップを感じる瞬間はありますか？

川本 育成のためと思つて行う「褒める」や「叱る」もやり方を誤るとハラスメントとなりがねないのでコミュニケーションの取り方にギャップを感じますね。メールでも『』を語尾につけていると堅苦しく感じると聞いて驚きました！

西嶋 ちょっと仰々しさは感じますね。『』はフランクだという印象です。

林 絵文字やスタンプの使用についてはどう感じますか？

廣瀬 理解してくれているかどうかが大切だと思つているので、スタンプで返してこられても気にしません。でも僕が目上の方に連絡する時は絶対にスタンプを使えないタイプです。

橋本 自分にそうした価値観があれば下の方に対してもそうした価値観になりそうですが、そうならないのはなぜですか？

廣瀬 それぞれの価値観なので強制することでは不だし、僕のやり方がいいと感じればそれを真似する人がいると思つています。以前ライフで役職をいただいたばかりの頃、責任者という気負いから、つい強い言葉や態度を使ったことで部下と距離感が生まれた時期があり、この関係性ではいけないと思つて変わったのかもしれない。

井上 今の人はワークライフバランスという言葉があるように定時後



末次…『ゆとり世代』
円周率は「3」ではなく「3.14」で習った

は自分の時間だということを大切にしているので、生産性を向上させ、属人化をやめること、ローテーションで一人に負荷をかけないということを強く意識しないと感じます。以前は残業や休日出勤にやりがいを持っていましたが、その意識の違いを感じるので気をつけたいと思います。

末次 上の世代の方は、何かあったときに動じず肝が据わつてるところが我々の世代と違うな、すごいなと多々感じます。営業の業務でもトラブルが起きそうな時は上司に相

談するんですが、「慌てる必要はないよ。こういう対応をすれば大丈夫だから。」とよくアドバイスをもらうので助けられています。

社歴の違う社員に聞いてみたいことや日頃伝えられていないことは？

ワークライフバランスの考え方の違い

林 社歴の違う社員に聞いてみたいことや日頃伝えられていないことはありますか？

井上 若手社員に『仕事優先・私事



花川…『Z世代』
インターネットで誰でも情報が得られる

優先』について聞いてみたいです。僕たちはがむしやりに仕事に集中して自分のやりたいことは後回しにしてきた世代だと思いますが、今の人は「仕事は仕事、プライベートはプライベート」という感じで定時に帰れたら自分の時間を有効活用したいという印象を受けます。

花川 僕としては両方優先かなと思います！仕事をしながらメリハリをつけてプライベートも楽しみたいという考えです。その日の仕事を中途半端なまま切り上げると翌日の仕事に響いたり、誰かがやらないといけないなくなったりするじゃないですか。僕はやらなければいけないことはきちんとやり切ってから遊びたいタイプです(笑)

西嶋 花川さんが言われたようにすべきことはした上でプライベートを優先したいという気持ちを持っています。

藤堂 私は子どもがいますが、仕事に集中すると家庭がおろそかになるタイプなので、仕事3・プライ



井上…『しらせ世代』
あらゆることに無気力な世代だが
どちらかというバブル寄り

ベート7と自分の中の割合を区切るようにしています。今は17時ちょうどに帰れるように業務の優先順位をつけています。

末次 私は30代中盤になって残りの働ける時間を考えた時、もつというんなことに挑戦したいという気持ちが強くなっています。ワークライフバランスではワーク寄りかもしれないですね。

林 仕事優先の方もいれば、プライベート優先の方もいる中間といったところでしょうか。逆に昔の方で、仕事よりもプライベートを優先するという方はいらっしやらなかったたので

でしょうか？

橋本 そうした選択肢や考えがなかったのかもしれませんが。

川本 当時、今では考えられない『24時間働けますか』というCMもありましたからね(笑)

橋本 ワークライフバランスというと、仕事とプライベートが二項対立のように感じてしまいましたが、『ワークインライフ』つまり私たちの人生の中に仕事もあるし、家庭や友人とのつきあい、趣味などがあるという風に考えてはどうでしょうか。人生を楽しもうと思えば、睡眠を除けば大半を占める仕事も、必然と有意義でありたいと思います。

今後どのような中特を作っていきたいか？

さまざまなたちが良い影響を与え合える会社へ

林 最後の質問になりますが、今後どのような中特を作っていきたいですか？

特集 世代を超えた変化へのチャレンジ



川本…『氷河期世代』
バブルが崩壊し、不景気と就職難に悩まされた

河村 せっかくいろんな世代がいいバランスで集まっているので、「先輩だから」「後輩だから」ではなく、お互いに意見を出し合い刺激し合って良い関係を築き、よりよい仕事ができるかと思っています。

川本 若い方から熟練の方までいる中でアイデアやビジネスが生み出されることで、本当に地域から必要とされる会社を目指していきたいです。

井上 年配の世代は昔から受け継がれてきた技術を若い世代に継承しつつ、ITに対して億劫になるので

はなく積極的にチャレンジして取り入れていって、今の若い世代に負けなようにしていけたらと思います。

廣瀬 風通しがよくチャレンジ精神旺盛な社風の会社、そして自分の仕事に誇りを持ちみんなが愛社精神の高い組織という2つを挙げます。部下がチャレンジしたいという時、失敗すると分かっていたとしても、まずはやってみて学んでもらっています。また、愛社精神と会社を存続しようとする意志を皆に強く持つてもらいたいと思います。

橋本 初めにお話しした通り、私たちはまもなく60周年を迎えます。中小企業は平均寿命30年と言われている中、変化に対応し続けたことで存続してきたという気持ちです。今日は世代間をテーマにした話でしたが様々な世代や国籍の方が加わっていく中でお互いの良さを認め、化学反応を生んで新たなものを生み出していきたいですね！ありがとうございます。



内閣府男女共同参画課「女性のチャレンジ賞 特別部門賞」を受賞しました

6月にCEOの橋本ふくみが内閣府 男女共同参画局より「女性のチャレンジ賞 特別部門賞」を受賞しました。起業や地域活動などにチャレンジする女性個人や団体などを顕彰することによってチャレンジの身近なモデルを示し、男女共同参画社会の実現への機運を高めることを目的とした賞です。この度はダチョウによる食品リサイクルや汚泥リサイクルといった独自性の高い

事業や地域密着型の環境・社会活動を通じた人材育成への注力、廃棄物アートコンテスト、英語でプログラミングを学ぶスクールROBBOの運営など幅広い取り組みが評価され、山口県に推薦していただき受賞が決定しました。7月17日(水)に(株)中特ホールディングスにて表彰伝達式が行われ、山口県環境生活部部长 近藤和彦様より表彰状とトロフィーを賜りました。



山口県知事を表敬訪問しました

1月22日(月)、山口県庁にて知事を表敬訪問しました。11月14日(火)に開催されたビジネスプラン発表会「九州・山口ベンチャーマーケット」において、山口県の代表企業として出場した(株)中特ホールディングスが第二創業部門で優秀賞を獲得したことについてご報告し、廃棄物アート事業に関するピッ



チの短縮版を披露しました。約7分間のピッチ後、村岡知事からは「環境問題については我々も普及啓発活動を行っているが、関心を持ってもらうのが難しくやり方を工夫しなくてはと思っています。素晴らしい発表でした。期待しています。」と激励の言葉をいただきました。



「災害時における災害廃棄物処理等の協力に関する基本協定」を締結しました

3月12日(火)、(株)吉本興業は周南市が取り組む『周南市地域防災計画』災害時の対応において「災害時における災害廃棄物処理等の協力に関する基本協定」を締結しました。災害発生時に災害廃棄物等の処理を円滑に実施するための協力に関し、具体的な行動や連絡体制など、非常時に市民の皆様を迅速に支援できる体制の構築に力を注いでまいります。



ポイ捨てごみ分布調査にパッカー車が協力しています

株式会社ピリカと連携し、10月から「車両(ごみ収集車)×スマホ×AIによる官民連携の地域美化システム『山口モデル』の構築」としてプロジェクトを実施しています。本プロジェクトは「やまぐちデジタル実装推進事業」に採択された事業の一環として取り組み、株式会社ピリカが提供する「タカノメ自動車版」のサービスを用いています。
[見える化ページURL: https://shunan.city.pirika.org/](https://shunan.city.pirika.org/)

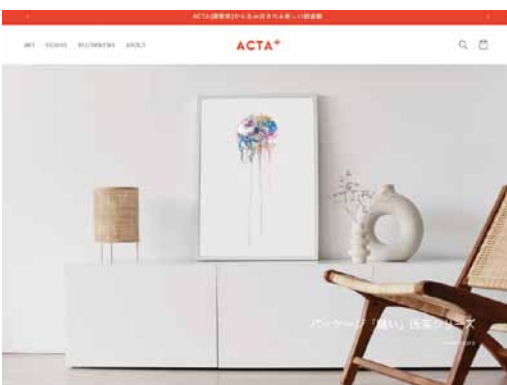
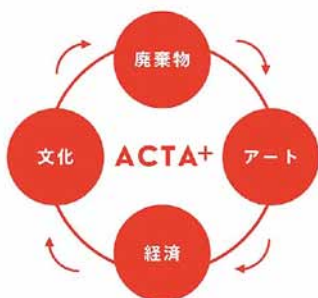


廃棄物アート事業の名称を「ACTA+」に変更しました

廃棄物アート公募展COIL Ucycle Art Contestなる活動を続けてきた廃棄物アート事業は、ACTA+(読み…アクタプラス)と名称を改めました。2024年3月に廃棄物アートやプロダクトを購入できるECサイトACTA+を立ち上げ、周南公立大学の新校舎に設置されたウェルビーイングスクエアに作品を納品したほか、TBS火10ドラマ『くるり』誰が私と恋をした?』にペットボトルを溶かして制作された作品などを貸し出しました。また、廃棄物アート公募展の名



ウェルビーイングスクエアにアート作品を展示中



称は新たにACTA+ ART AWARDとなり、東京都日本橋で開催することとなりました。

品質向上の旗手、BASE100プロジェクトの役割と成果



発足日：2023年8月1日

BASE100とは(目的)

「BASE100」とは、中特グループが創立100年に向けて進化し続けるために必要な「土台固め」として、様々なことにチャレンジするためのプロジェクトです。経営とISOが一体となるような仕組み作りや各社業務のDX推進など、社内の活性化や改善を図りながら中特グループ全体のパフォーマンスの向上を目指しています。各部署より選出されたBASE100メンバーが連携し、グループ全体での取り組みの水平展開やそれぞれの部署で抱える課題の解決を行っています。



BASE100 メンバー：
中国特殊(株)：梅本 貴史



BASE100 リーダー：
(株)中特ホールディングス：山本 勉

活動頻度

各担当部署での活動は日常的に行われていますが、週に一度行われるミーティングではグループ全体での課題などを協議し、部署を横断する改善事項についても打合せを行っています。また、中特アカデミー（社内研修会）やマネジメントレビューの実施に関してはメンバー全員が集まって集中的に検討・実施を行っています。月に一度行われるQM（品質マネジメント）会議においては、役員や各部署の責任者に向け、現状の課題の報告と改善策について提案しています。

活動内容

主に担当部署内の仕組みの見直しや、標準書の作成の推進、業務の改善を行っています。部署のみで解決できない問題であれば、BASE100メンバーが解決に向け連携しながら改善に

Topics 2024

AT : 2023.11 ~ 2024.10



BASE100 メンバー：
（株）リライフ：石井 貴大

つなげています。
また、ISO9001の社内
運営者（品質管理委員）として
の役割も担っており、トラブル
発生報告書や不適合是正報告書
の管理、運用を行っています。
ISO9001におけるマネジ
メントレビューのタイミングで
トラブル発生件数や不適合にお
ける原因調査や課題を傾向分析
し、改善につなげるための施策



BASE100 メンバー：
（株）中特ホールディングス：藤田 晃大



BASE100 メンバー：
（株）吉本興業：松村 翔

を検討しています。
中特アカデミーでは、講師と
して「品質 ISO と業務の関連
性について」や「ゲームで学ぶ品質
ISO」や「トラブルから学
ぶ！品質が向上する業務改善の
3ステップ」といったテーマで全
社員向けにグループワーク中心
の研修を実施し、社員の意識向
上と業務改善スキルの強化に取
り組みました。

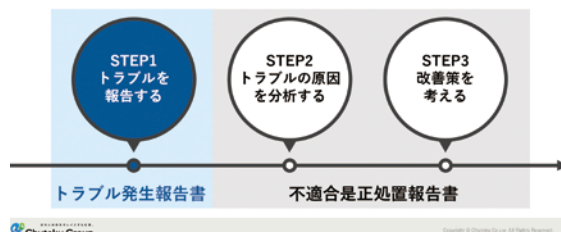


BASE100 メンバー：
（株）中特ホールディングス：村田 百合子



STEP1 トラブルを報告する

トラブル発生から業務改善までの3ステップ



活動成果

中特アカデミーを通じた「仕事の質の向上」に対する意識の向上に加え、2023年2月よりスタートしているトラブル発生報告や不適合是正報告の運用については、2024年10月までにグループ全体で486件のトラブル発生報告があり、そのうち229件は不適合判定となり是正処置が必要となりました。報告を基に改善を実施した結果、トラブルや改善点の「見える化」が進み、情報を蓄積する仕組みが整いました。しかし、これらの情報を有効活用するにはまだ課題が残っています。今後は、グループ全体に共通する改善点を抽出することで、引き続き業務効率化と品質向上を目指していきます。

他にも、新たにオリジナルのプラットフォームを構築しました。このプラットフォームでは、営業活動に必要な顧客情報や商談メモ、見積書、契約書、作業指示などを一元管理できるようになり、営業部と事業部の情報共有による連携が向上し、業務の効率化を実現するとともに、データを活用した戦略的な意思決定も行えるようになりました。



トラブル発生報告

486 件



不適合是正報告

229 件

数字で見る中特グループ

2023中特グループの10の取組み【経営&ISO統合目標】

中特グループが地域社会に強く必要とされるために、次世代のために、環境のこと、社会のこと、子供たちのことを考えて何をすべきか、あるべき姿に向かって取り組んでいます。2023年度は10の課題を掲げて活動を行いました。

No.1 事故・災害の撲滅



事故・災害は常に“ゼロ”を目標に取り組んでいます。

メジャー（休業災害、人身事故、物損大）、マイナー（不休災害、物損小）、軽微物損に区分しています。幸いにしてメジャーに相当するような大きな事故・災害は発生していませんが、軽微な物損や作業中の転倒によるケガ等の小さなものが散発しています。2022年度5件、2023年度9件と増加しており、残念ながら撲滅には至っておりません。

JBK（事故撲滅研修）、リスクアセスメント活動、KY活動その他の継続実施はもちろんのこと、その内容（質）を高める活動により、事故・災害“ゼロ”を目指します。

交通物損事故

2件

ケガ災害

7件

No.2 環境への貢献



地球環境の維持改善にわずかでも貢献するため、産業廃棄物の再資源率向上、CO₂排出量削減に向けて取り組んでいます。

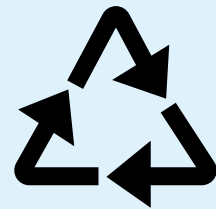
再資源化率向上については、2019年度96.7%から2022年度98.2%と向上してきましたが、2023年度は93.8%となりました。これは、新規受入先の処理を積極的に進めたことによります。

また、2023年度のCO₂排出量は780t-CO₂となり、前年比21t、2.6%の削減となりました。

今後さらなる向上を目指します。

2023年度再資源化率

93.8%



No.3 中特チームカイゼン活動

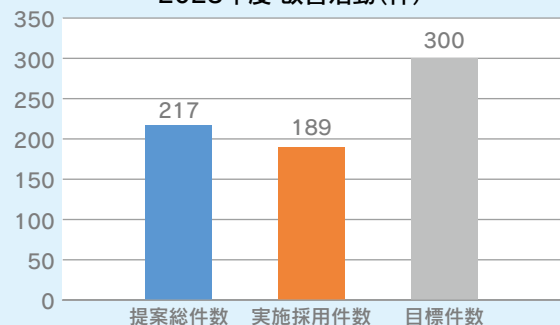


業務効率化・コスト削減・省資源・省エネ・安全・環境美化向上および社員の改善意識向上を図る為、改善提案制度を導入し活動を行っています。

2023年度の提案件数は217件、実施採用件数は189件となり、提案目標の300件には届きませんでした。

2024年度は社員の改善提案意識の更なる向上を図る為に、改善提案制度の改訂を行い、提案を出しやすい、改善を実施しやすい体制を再構築することで、質・量ともに充実した改善活動を実施してまいります。

2023年度 改善活動(件)



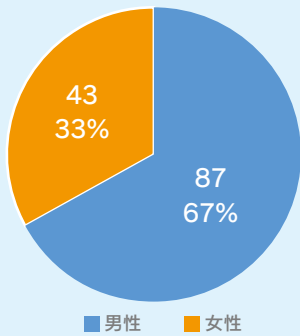
No.4 構成



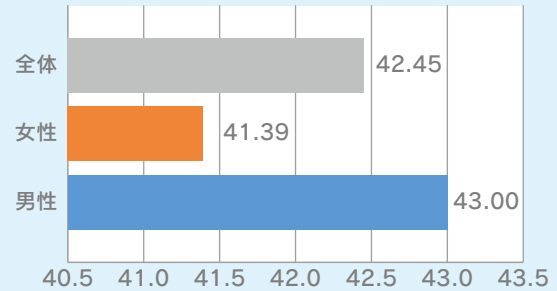
短時間正社員制度や希望した時間帯に働くことが出来るパートタイム制の導入により、子育て世代の女性が自分の生活スタイルに合った柔軟な働き方で多く活躍をしています。

また、高校及び大学新卒の積極的な採用活動や若年層の中途入社採用にも力を入れた結果、平均年齢は約42歳となりました。

従業員数(人)と男女比 2024/8/1現在



平均年齢(歳)



No.5 働き方



「働き方改革推進に関する方針」を掲げ、ワークライフバランスの推進、社員の健康で充実した生活を後押しし、長時間労働を前提としない職場環境の整備などに努めています。

男性の育児休暇制度の利用率も高く、2023年8月～2024年7月において100%の利用率となりました。

勤怠管理システムの導入により実労働時間の把握・管理を実施。また労働時間の短縮だけでなく、デジタル化の推進や業務の標準化を進め、作業効率の向上と生産性の最大化を図っています。



男性育児休暇取得率
2023年8月～2024年7月

100%



有休休暇取得率 / 年

17.6%



月平均残業時間 / 年・人

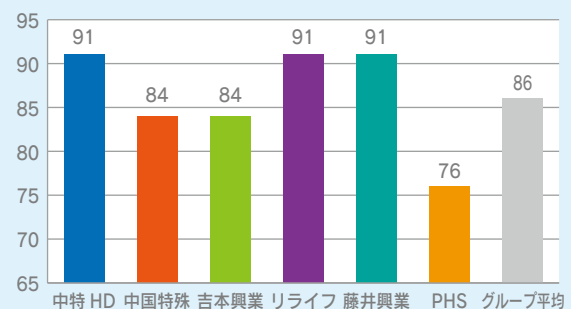
1.5 時間

No.6 健康増進活動の推進



年に一度の健康診断とストレスチェックを実施し、要検査対象者には適切な受診を推奨しています。月一回の産業医による職場巡視や安全衛生委員会を通じ、健康に関するアドバイスを提供。禁煙達成に向けた費用補助制度も導入しています。また、総務管理部から毎月、社員に向けて健康情報を発信し、社員の健康意識向上に努めています。

健康経営の各社点数(100点満点中)

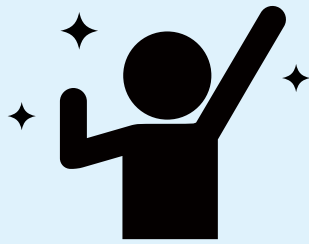


No.7 社員幸福度



近年、「社員の心身の健康・生活の幸福度」といった「ウェルビーイング」の概念が企業経営において注目されています。ウェルビーイングの視点で弊社の現状や課題を把握することで今後の会社の取り組みや福利厚生・制度設計などの検討に活用することを目的に、今年度初めてグループ全社員対象にウェルビーイングアンケートを実施しました。

今後も実施することで、社員の健康や悩み・不安の傾向を把握し、会社の制度検討や働きやすい職場づくりに努めてまいります。



ワークエンゲージメントスコア

3.1 点 / 6 点

○ウェルビーイング

…ワークエンゲージメントスコア 3.1点 /6点

※ワークエンゲージメントとは、仕事に関連するポジティブで充実した心理状態のことを指します。ワークエンゲージメントが高い人は、一般的に仕事に誇りとやりがいを感じ、熱心に取り組み、仕事から活力を得て、いきいきしている状況にあると考えられています。

…仕事満足度

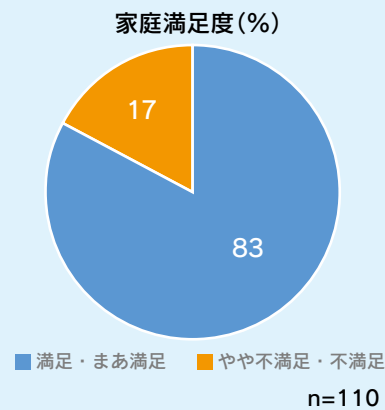
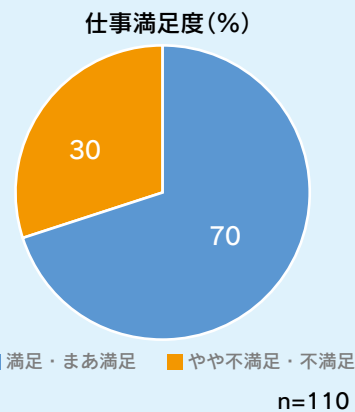
満足・まあ満足…70%
やや不満足・不満足…30%

…家庭満足度

満足・まあ満足…83%
やや不満足・不満足…17%

…主観的健康観（現在の健康状態）

良い・まあ良い…89%
あまり良くない・良くない…11%



主観的健康観（現在の健康状態）(%)

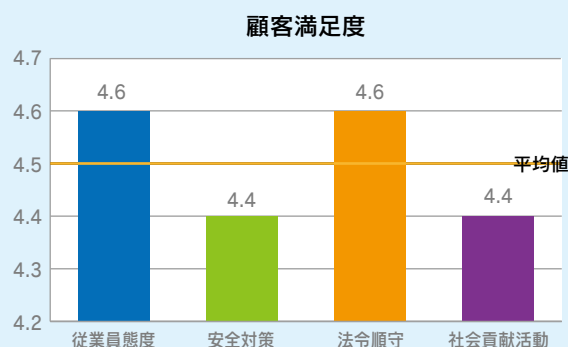


NEXT 10 Targets

No.8 顧客満足度



2023年度に実施した顧客満足度アンケートでは、7項目を5段階にて評価していただきました。その結果、全体的に満足度は高く平均4.5以上の評価をいただきました。営業姿勢やサービス内容に対しては多くのお客様にご満足いただいておりますが、サービスの価格と提供スピードに対しての評価が相対的に低いことがわかりました。この評価を真摯に受け止め、今後もお客様のニーズに応える努力を続けてまいります。



No.9 地域とのかかわり

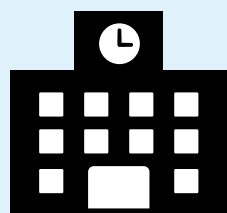


地域社会とのかかわりを大切にし、地域清掃やボランティア活動を通じて環境保全や地域社会への貢献に取り組んでいます。また、教育機関（小学校、中学校、高等学校、大学）との連携活動や小学生を対象とした出前授業を実施。次世代への教育支援にも力を注ぎながら、「いきいきサロン」をはじめとする地域活動にも取り組んでいます。今後も地域住民の方との交流を深めながら地域とのつながりを大切にしていまいります。



地域清掃ボランティア

17回



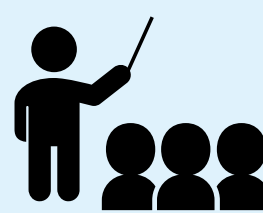
教育機関連携 (小・中・高・大)

18回



いきいきサロン

10回



環境出前授業

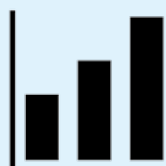
2回

No.10 年間売上



2023年度の売上高は16.04億円となりました。

2023年度は売上よりも基盤強化を重視し、社員教育や体制の整備に力を入れ、今後の成長に向けた土台固めを徹底しました。今期は会社方針として「当事者意識」のスローガンのもと、前期に築いた“土台”をさらに盤石な基盤とすべく、社員全員で「当事者意識」を持ち、“土台固め”と“利益の確保”に取り組んでいきます。



2023年度の売上高
16.04 億円

環境のために

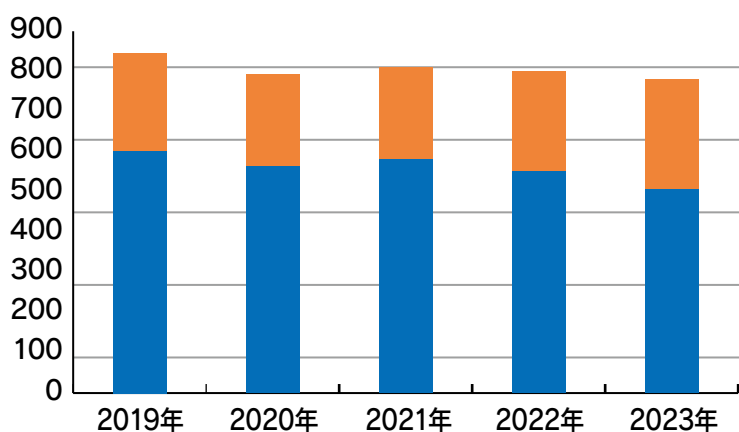


「中特グループは、地球上の全人類及び地域社会とともに持続可能な発展をするために、環境保全に努め、環境に優しい企業活動を行う。」という考えのもと、地域環境活動を推進しています。

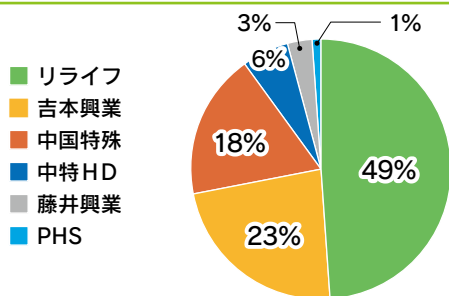
CO₂削減の取組み

日本の掲げる2050年カーボンニュートラル宣言、2030年までの削減目標に沿って、中特グループもCO₂削減を推進しています。
2023年度CO₂発生量は780t-CO₂/年となり、前年度比2.4%の削減となりました。今後も具体的な削減に取り組んでまいります。
尚、算出はSCOPE1-2の集計となります。

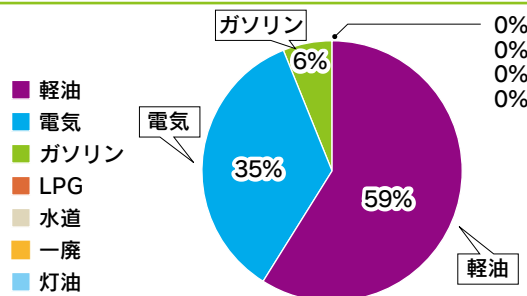
CO₂排出量推移 (単位: t-CO₂/年)



各社別CO₂排出内訳 (%)



種別CO₂排出内訳 (%)



種別排出量並びに各社別排出量は次の通りです。

- ① 目標の評価が目標を達成する為の手段の評価に留まっている。(計画)
- ② 不適合原因の特定段階で真因の確定に至っていない。(不適合是正)



7月2・3の両日、1年次のサーベイランス審査を受審しました。不適合はなく、マネジメントシステムは十分に有効であるとの判定を受けました。但し、2件の「改善の機会」が挙げられています。

環境ISO14001 サーベイランス審査

マテリアルバランス

事業活動に伴う資源・エネルギーなどの投入量と、それに伴う地球環境への排出量を表しています。限りある資源を大切に、環境負荷を最小限にすべく取り組んでいます。

(2023年度分)

INPUT

事業に伴う資源・エネルギー等

汚泥	18,234t
がれき類	418t
ガラスコンクリ他	104t
廃プラスチック類	1,205t
金属くず類	246t
繊維くず	4t
紙くず類	35t
ダンボール紙類	294t
木くず	629t
廃酸廃アルカリ	372t
廃油	121t
銻さい	32t
もえがら	1,789t
ばいじん	2,360t
動植物性残渣	1,788t
処理水	70,903m ³
水道水	3,003m ³
地下水	2,138m ³
電力	423,500kWh
ガソリン	20,737ℓ
軽油	175,373ℓ
灯油	170ℓ
LPG	32m ³
コピー用紙	272,801枚

中特グループ

OUTPUT

再資源化、地球環境への排出等

(リサイクル対象のもの)	
セメント原料	23,726t
がれき類	952t
ガラスコンクリ陶磁器	1,140t
廃プラ	623t
ペットボトル	62t
金属くず	276t
缶	39t
紙・繊維くず	109t
ダンボール紙類	294t
木くず	728t
肥料原料	8t
石膏ボード	9t
(リサイクル対象としないもの)	
汚泥焼却	330t
汚泥埋立	1,505t
処理排水	62,955m ³
下水排水	2,643m ³
地下水排水	1,881m ³
CO ₂ 排出量(換算)	780t
(エネルギー及び水道使用量から算出)	
一般廃棄物	908kg

リサイクル率 93.8%

リサイクル率

リサイクル率は下記の式で算出しております。

$$\text{リサイクル率 (\%)} = \frac{\text{直接資源化量} + \text{処理後再生利用量}}{\text{廃棄物排出量}} \times 100$$

リサイクルするもの：金属、木材、紙、プラスチック、セメント原料、肥料原料等

リサイクルしないもの：埋立処分、燃料（サーマルリサイクル）等

地域社会とともに



中特グループは、地域社会の一員として、地域社会とのかかわりを大切にし、グループ全社をあげて様々な企業活動を行っています。

教育機関との連携も積極的に活動中!

昨年引き続き、山口県内の小学校から大学までの教育活動を積極的にサポートしました。2023年10月から2024年9月までの期間に各教育機関において合計18プログラムのサポートを実施。特に徳山商工高等学校では、2年生を対象とした「総合的な探究の時間」の授業において、社会人メンターとして継続的に伴走支援を行いました。カーボンニュートラルに関する講義も実施し、環境意識の深化に努めました。また周南公立大学では、赤木氏と大坂氏が主宰する地域ゼミにて学生の

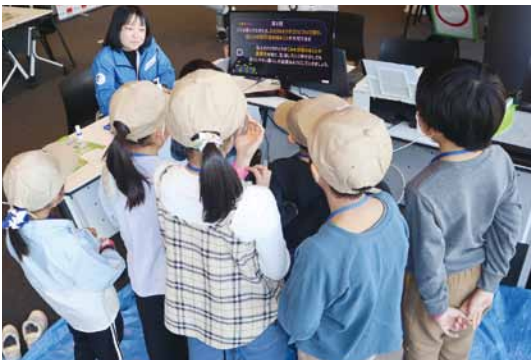
社会人サポーターとして活動、食

品ロスに関するワークショップやイベントの開催をサポートし地域社会との連携を深めています。



こどもつちゃ! 商店街に出展

11月23日(木)勤労感謝の日、徳山商店街を舞台に小学生が仕事体験ができる「こどもつちゃ!商店街」に出展しました。中特グループでは「ごみの分別で地球を守ろう」というテーマのもと、ごみの分別体験や環境に関するクイズを行いました。分別体験では保護者の方などにもご参加いただき、分別のポイントを説明しながら実際に分別をしていただきました。参加者からは「ごみの分別の仕方が分かった」という感想を多くいただき、環境に関する問題やごみの分別方法について学んでいただくことが出来ました。若手社員を中心に地域の小学生との交流の場となりました。



海岸漂着物で作るクラフトアート体験のブースを出展

10月7日(土)、8日(日)、「下松タウンセンター「キラル」30周年記念」Straru×Rock山口放送SDGsで連携「新たな一歩プロジェクト」が開催され、その一環として「海岸漂着物で作るクラフトアート体験」のブースを出展しました。2日間で38名のお子様にご参加いただき、ワークショップ、海岸漂着物を使用したアロマディフューザーづくりを通して、ごみ問題に関心を高めていただきました。

どのプログラムも熱心に取り組まれている様子で、ワークショップでは、ごみを減らすための活動として「マイ箸を使う」「何回も使う」などお子様自身が考えたオリジナルのアイデアを宣言してくれました。



小学校での環境出前授業を実施

7月9日(火)・7月18日(木)に小学4年生を対象にした「環境出前授業」を行いました。横浜小学校(約40名)、徳山小学校(約100名)の児童の皆さんへ向けて、社員4名がそれぞれ講師を務めました。

最初にごみの分別、3R、^{※1}ピリカの取組みについての説明を行い、ごみ分別の大切さや循環型社会、ポイ捨て対策について学習しました。その後行った分別ゲームでは、中身にビーズが使用されているぬいぐるみ等が出題され、生徒児童の皆さんは四苦八苦しながらも真剣に取り組み姿が見られました。

最後にゴミ収集車への投げ込み体験を実施し、普段あまり目にするのではないゴミ収集車の中身や動きに興味津々の様子でした。

※1 ピリカ：(株)中特ホールディングスは株式会社ピリカと連携し、2023年10月から「車両(ごみ収集車)×スマホ×AIによる官民連携の地域美化システム「山口モデル」の構築」としてプロジェクトを実施しています。



いきいきサロンへ訪問

(株)ポータルハートサービスが2013年から継続しているいきいきサロンへの訪問ですが、今年度も周南地区を中心に10カ所訪問しました。サロンでは、実際に私たちが見聞きしたことや体験した内容を織り交せて作成した、当社オリジナルの紙芝居「終活ミニセミナー」が好評で、「また来年も来て欲しい」といったご要望をいただいております。

この紙芝居は、片付けを「自分ごと」として考えていただくために、片付けを行った場合と行わなかった場合の生活の違いを具体例で示し、片付けの重要性をわかりやすく伝えています。文字を最小限に抑え、視覚的に伝わりやすいイラストをメインにすることで、幅広い年齢層の方々に楽しんでいただけたよう工夫しました。



2013年9月～2024年9月までのいきいきサロン訪問回数：延べ143
参加者数：延べ3,220名

海岸漂着物で作るクラフトアート体験を開催

8月18日(日)、光市にて「海岸漂着物で作るクラフトアート体験」を開催しました。

海岸で拾ったプラスチックゴミなどを、使ってアート作品を作り、海岸清掃とクラフトアート、プラスチックゴミに関する絵本の読み聞かせから、海ごみや環境問題について考えました。クラフトアートの時間には、海岸清掃で集めたプラスチックゴミなどを組み合わせ、びんの蓋、砂、紙粘土、絵の具を使って砂浜を表現するなど、それぞれの個性とこだわり、アイデアが光る作品が並びました。絵本「プラスチックモンスターをやっつけよう!」の読み聞かせでは、ゴミが海の生き物や私たちにどんな問題をもたらすのか、絵本を元にしたプレゼンテーションで伝え、子どもたちの真剣な様子がうかがえました。



(体験の機会の場合プログラム開催実績)
・海岸漂着物で作るクラフトアート体験(2回)
・dachowによる食品リサイクルの仕組みと食品ロス(2回)

一般社団法人 全日本釣り団体協議会様より感謝状をいただきました。

会社周辺の地域清掃やイベント時のクリーンアップなど、自社企画及び他団体の取り組みに継続的に参加をしています。特に、釣り団体協議会主催の海岸清掃ボランティアでは継続的な活動協力の功績が認められ、一般社団法人全日本釣り団体協議会様より2月22日に感謝状を賜りました。今後も全社員で協力しながら地域の環境美化に努めてまいります。



開催日	清掃活動名	主催者
R5.11.11	周南市港公園・埠頭清掃作業	山口県釣り団体協議会
R5.12.16	徳山ツリー祭り清掃ボランティア	中国特殊(株)
R6. 6. 1	笠戸島はなぐり海岸清掃ボランティア	(株)リライフ
R6. 7.21	徳山夏祭り翌日清掃ボランティア	(株)吉本興業
R6. 7.27	大津島刈尾海浜清掃	山口県釣り団体協議会
R6. 9.14	岸壁海底清掃	山口県釣り団体協議会

お客様とともに



中特グループは、お客様や地域に愛される企業を目指し、真にお客様の立場になったサービスに取り組んでいます。

第17回 HappyHappy勉強会

6月14日(金)15時より、(株)中特ホールディングス本社(COIL)にて、第17回HappyHappy勉強会として哲学者小川仁志様をお招きし、「常識を超えて考えるための哲学思考」というテーマでご講演いただきました。当日は、対面とYouTube配信によるハイブリッド形式で開催し、社員のほか約210名の方からお申し込みをいただき、40名ほどが対面でご参加いただきました。



小川仁志様

講演は「なぜ哲学を知っておく必要があるのか?」という問いから始まり、哲学とは何かという基礎から、常識を超えるためのコツ、そして哲学思考のプロセスまでを解説していただきました。特に「哲

学スイッチ」として、「常識」と「常識を疑う思考」の切り分けの大切さ、そして哲学するための心構えとして「環(かん)返る(がえる)」ことの重要性や哲学者たちの常識を超えた考え方についてもお話しいただき、約1時間という短い時間でありながら、たくさんの興味深いお話しをしていただきました。小川様の講演はとてもユーモアに溢れたエピソードが多く、会場では度々笑いが起こっており少し難しい印象のある哲学を楽しく面白く学ぶことが出来ました。講演終了後には、当日会場で販売されていた「アイデアの着眼点」、「当たり前」を疑う100の方法」、「60



歳からの哲学」の最新著書を購入して、小川様に直筆でサインをいただいている方や、持参した著書へサインしていただきました。聴講後のアンケートにもたくさんのコメントがあり、哲学に興味を湧いてくる楽しい講演会となりました。

聴講後のアンケート(抜粋)

- ・哲学という普段関わりがあまりない分野について、小川先生がユーモアを交えながらお話しいただいたので、非常に分かりやすかったです。
- ・哲学って、ワクワクすることなんだ!と面白かったし、発想の幅が広がりました。
- ・自分で未来を作るためのヒントが溢れていて自分へのご褒美のような講演会でした。ありがとうございました。
- ・とても聞きやすい語り口で、画面越しにも語り掛ける口調で思わず相槌を打ちながら聞いていました。
- ・常識から離れてみるというアプローチを日常で考える機会がなかったため、良い学びになりました。
- ・新しいアイデアは常識の枠を出ないと生み出せないものだと感じました。

お客様との対話を深める工場見学の取り組み

当社では、営業担当者が直接お客様を工場にご案内し、廃棄物処理やリサイクルされる実際の過程を詳しくご説明いたします。お客様のニーズに寄り添いながら、当社の技術をどのように活用できるか具体的なご提案を行い、双方で最適な解決策を共に検討します。このような対話を通じて、お客様との信頼関係を一層深め、共に持続可能な未来へと歩んでまいります。



お客様のご意見



下関三井化学株式会社
営業部 業務推進室長 三本 敦久様

中特グループのリライフ様とお付き合いは、2017年に弊社工場内の産業廃棄物を処理していただくところから始まりました。2022年からはリライフ様が収集された産業廃棄物の中で、弊社の原料として活用できるものがあるのではないかといい事で、技術検討を始めさせていただきました。その中で産業廃棄物であるフツ化カルシウム汚泥の脱塩および複数銘柄混合技術を用いた成分調整により、リライフ様から安定品質のフツ化カルシウム汚泥をご提供いただくことを実現できました。加えて弊社工場へもお越しいただき技術交流させていただくことにより、弊社新設備建設に多大なご尽力をいただきました。資源循環による環境負荷の低減を達成しましたことに、大変感謝しております。

このことは、中特グループ様が発行されているCSR報告書 Think of Next Vol.11においてNEXT 10 Targetsが掲げられておりますが、その中のNo.6再資源化量の拡大とNo.7再資源化率アップにも貢献させて頂いたと思います。

No.8多様性の尊重への取組として（特に女性活躍の拡大の取組みとして）、上記地域密着型の様々な環境・社会活動を通して社員の皆様の研鑽や人材育成にも注力されている等を対象として、2016年には山口県女性活躍推進知事表彰「女性のチャレンジ賞」を中特グループ様は受賞されています。更にこの度は内閣府より「女性のチャレンジ賞 特別部門賞」を受賞されています。このような女性活躍の積極的な取組みへの実績についても弊社のような化学産業においても、女性活躍の場を拡大していく上で大変参考になりました。

さて、当社は、三井化学グループの中核グループ会社として、磷酸系事業の製造・販売・研究を主体に「世界で存在感のある磷酸系専門企業」を将来像として目標に掲げ、グローバルな舞台で親しまれ、尊敬される企業を目指して日々積極的な企業活動を展開しています。

その中で、2000年の会社設立当初から、独自に開発した技術により、各産業から排出される産業廃棄物を回収し再資源化するサービスを事業化。特に従来回収再利用が難しいとされていたフツ酸、硫酸、磷酸、フツ化カルシウム、リン酸カルシウム等を当社製品原料の一部として再利用しております。今後更に、この環境事業を通して当社の理念である地球環境との調和、4R（Replace、Reduce、Reuse、Recycle）の追求に邁進してまいります。また、三井化学グループとして今後も地域と社会の期待と信頼に応え、社会と化学産業の持続可能な発展に貢献していく中で、これからも中特グループ様と相互に技術交流等を通して、資源循環による環境負荷低減を進めて参りたく、引き続きご協力をお願い申し上げます。

最後に、中特グループ様の益々のご発展と社員の皆様のご活躍を祈念しております。

苦情ゼロとお客様の声

1月に実施した顧客満足度アンケートには、134名の方からご回答いただきました。その結果、全社共通の課題として「提供スピード」と「価格」についての向上が求められています。価格については、私たちの商品価値をさらに向上させることで、また提供スピードについては、業務フローやプロセスの改善を進めることで、ご要望に応えていきたいと考えています。

また、今後の中特グループへの期待として、新規事業への発展や処理が困難な廃棄物に対する相談対応の継続を求める声が寄せられました。他にも中特グループのネットワークを活かした協業への取組みについても求められています。

皆さまからのご意見を大切にし、業務改善を進めることで満足度を向上させ、今回のアンケートが意義あるものとなるよう努めてまいります。今後もさらに多くのお客さまのお声を賜りますようお願いいたします。

サービス内容・品質

★★★★★
評価の平均 4.47

サービス提供スピード

★★★★★
評価の平均 4.37

サービス価格

★★★★☆
評価の平均 4.00

法令順守・コンプライアンス意識

★★★★★
評価の平均 4.61

社員とともに



中特グループは、「すべては、応援からはじまるの精神で接する」という社員に関する方針を掲げ、社員は会社にとって一番大切な存在で、社員とその家族を守る事を最大の目標とし、事業拡大よりも優先します。

4年ぶりの社員旅行

コロナウイルスの影響で2019年の開催を最後に中止していましたが、ようやくこの度4年ぶりに再開することが出来ました。今回の研修旅行は、「熊本」「ラオス」「韓国」の3ヶ所より各々が行きたい場所を選び、時代と共に大きく変化しているスポットへ訪れました。仲間と共に過ごし、体験し、感じる事が最大の目的です。参加した社員の感想をそれぞれご紹介します。

10月14日(土)～10月15日(日) 熊本研修旅行

中国特殊(株) 戒崎 健志

初日は熊本市内で先進的な取り組みをされている他社の廃棄物処理工場の見学に。ベルトコンベアの上をかなり高速で流れてくる廃棄物がAIカメラによって瞬時に分別される様子は、人によって手作業で分別していた時代を知る者からすると驚きでした。しかし熊本地震の際には、搬入の為の車両が数十台にも並ぶ行列となり、24時間体制で稼働しても追いつかなかったとの事でした。

翌日、阿蘇方面に向かう道中で、



その被害の大きさがわかる崩れた山の斜面や崩落した橋梁を見た時は、「ここ山口県で同じような災害が起きた場合、廃棄物にかかわる仕事をしている私たちは、落ち着いて行動や対応が出来るのか考えさせられました。

11月2日(木)～11月6日(月) ラオス研修旅行

(株)ライフ 正田 陽一

ラオス旅行で特に印象に残っているのは現地の学生との交流会で、学生の勉強への強い意欲や日本への関心の高さを感じました。

交流会では、伝統的な楽器や踊りを披露していただき、ラオスの現状等を教えていただきました。皆さん真剣な顔で私たちの話を聞いてくれ



たことや、交流会の後、私に声を掛けに来てくれたことが印象に残っています。

他にも、ラオスの人々の生活の様子も印象に残っています。ナイトマーケットで大勢の人が値引き交渉に盛り上がっていたり、計画停電で大型スーパーのエスカレーターが完全に止まっているなど、日本ではなかなか見られない光景が広がっていました。

ガイドの方からは「貨幣の価値が落ちて生活が厳しく、大変」という話を聞きましたが、それでも市民の方も含め笑顔で話している場面を多く見ました。

ラオス旅行を経て、学習意欲があり色々なことに興味を持つところや、笑顔を忘れないところは見習うべきだと思いました。

12月1日(金)～12月3日(日) 釜山研修旅行

(株)中特ホールディングス 岡本 桃佳

釜山旅行は、知らない文化、違う慣習、日本とは違う「人」や「モノ」を生で感じる事ができた貴重な時間でした。

以前から韓国の文化に興味を持っていましたが、実際に行くと関わったり、話したり、街を見渡し



たりしていると、新しく知ることばかりで、実際に足を運ぶことの大切さを身に染みて感じました。

釜山市スマートシティ体験館ではITを活用したスマートシティ化についてVRを使用した3Dモデルを体験し、最新技術を使用したサービスについて知ることができました。私たちROBBOが普段のレッスンで子供たちに教えているセンサーなどを、実際の社会生活で活用した例を知り、その技術力の高さにさすがは韓国第二の都市と言われる釜山であるなど驚きました。

甘川洞文化村や海雲台ビーチなど美しい土地に心躍らせ、その中でその地が観光地となった背景や歴史を知ることができ、職場の方々との関係も深められ、楽しみながらも学びを多く得られた2泊3日の旅でした。



2024年度事業発展計画発表会

テーマ：「当事者意識」

8月24日（土）に
2024年度事業発展計画発表会を遠石会館にておこないました。

会長 吉本英子より
来年初業60周年を迎えるにあたり、60年間の歴史は全社員の努力によって築かれたものであると感謝を述べました。

本年度のテーマ「当事者意識」については、社員同士が家族のように助け合う意識を持ち続けることで、人手不足の問題も解決できる可能性があると話し、社員と共に未来を創造することへの期待を示しました。



CEO 橋本ふくみより

昨年度の振り返りと2024年度の経営方針について説明しました。
本年度の重点施策は、昨年度作り上げた標準書を活用し業務品質の向上を図ることを始めとし、新人事制度の運用、中期事業計画の策定の3点を掲げました。また、経営陣自らが顧客ニーズを積極的に

に把握し顧客創造に取り組んでいくことも表明しています。
これらの達成に向け、社員一人ひとりが「当事者意識」を持ち課題に取り組みることが会社の成長に繋がると呼びかけました。



◆最優秀部門賞

(株)藤井興業

◆永年勤続表彰 20年勤続 2名

河村 久美 西尾 浩和

◆個人表彰

今年度も各社で活躍した社員の個人表彰が発表され、懇親会にて賞状と金一封が授与されました。

顧客対応お楽しみ様です賞

(株)中特ホールディングス/末次 翔

ボランティア活動に率先して参加したで賞

(株)吉本興業/高木 真

何事にも常に勉強熱心で

チャレンジ精神が旺盛で賞

中国特殊(株)/田中 麻衣

急成長したで賞

(株)ポータルハートサービス/岩田 陽子

これまでより早いで賞

(株)リライフ/正田 陽一

懇親会

発表会の後、懇親会が開催されました。若手社員を中心としたエコライフチームが企画したクイズやくじ引き、じゃんけん大会などのゲームを通じ、社員同士の交流を深めました。
会社の一体感を醸成し、「当事者意識」というテーマを体現する良い機会になりました。



社内スポーツ大会

10月8日(日)、鼓南地区総合運動場で社内ソフトボール大会を開催しました。参加は自由で、約30名の社員とそのご家族が集まりました。
初心者も加わり各社対抗戦を繰り広げ、力強い攻守が見られました。また、3月15日(金)には社内バドミン



トン大会を開催し、10名が集まってダブルスなどの試合で熱戦が行われました。社内スポーツイベントは部署を超えた交流の機会にもなっており、普段は業務で接点のない社員同士でも、会話が弾み盛り上がる様子が見られました。



親睦会行事

コロナウイルス感染拡大の影響により長らく行われなかった親睦会の行事が久しぶりに行われました。4月6日にはお花見、6月8日・9日には日帰りのバス旅行を行いました。業務上関わりの少ない社員同士の親睦を深める場となりました。

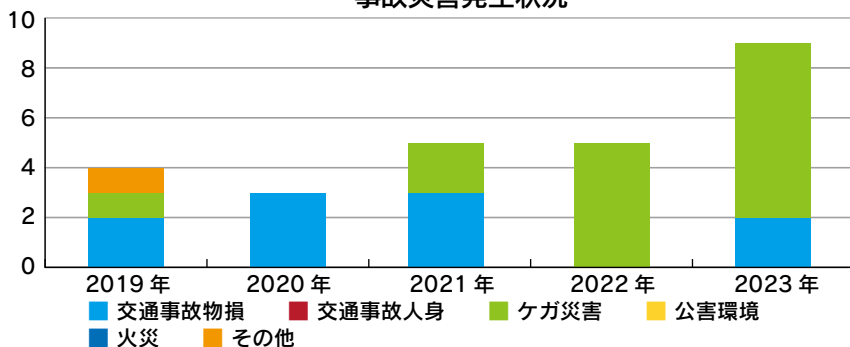


事故災害ゼロをめざして



「安全衛生・防災はすべてに優先する」考えのもと、事故災害”ゼロ”を目指してグループを挙げて、各管理者・安全衛生委員会を中心として安全衛生防災活動に取り組んでいます。

事故災害発生状況



2023年度は7件の不働災害・交通物損事故が発生しました。休業災害の発生はありません。

事故災害発生状況

	不働災害の内容	原因
①	移動中に動線にあった板を踏んだ際、釘を踏み抜いた。傷口消毒、破傷風予防注射。	雨降りの屋外作業であった為、安全靴ではなく、長靴を履いていた。不注意に落ちていた板を踏んだ。
②	集積庫内でコンクリート製の仕切りの上に乗ったところ、仕切りが倒れて共同作業者の足に当たった。軽度打撲。	コンクリート製の仕切りが固定されていると思い込んでいた。
③	集積庫からダンボールを回収する際、複数枚を一度に引き出したところ、1枚が滑り臉に当たった。顔軽傷。	ダンボールが目線より高い位置にあった。効率を優先し、一度に多くの枚数を運ぼうとした。
④	ごみ回収時に配電盤から出ているダクトに気付かずに頭を打った。頭部裂傷。	他の車が停車していたことにより、普段とは違うルートで回収を行った。危険ポイントの認識不足。
⑤	汚泥吸引中に吸引ホースが暴れ、作業員の顔を強打した。鼻血。	作業前の打合せやKYによる危険ポイントの把握が十分に行われていなかった。
⑥	作業後に伝票を記入する際、ムカデがくっ付いていることに気付かず噛まれた。通院治療。	ムカデに気付かなかった。
⑦	委託回収時にごみ袋をステーションから取り出す際に腰（背中）に痛み。通院治療。	原因詳細は不明。

BCP（事業継続力強化計画）

2021年12月に中特グループ全6社で認定を受けた経済産業省中小企業庁「連携事業継続力強化計画」に沿って、2023年度も具体的な活動と見直しを実施しました。主な活動として、地震（津波）や台風等の自然災害発生時の対応についての行政との連携協議や、避難マニュアルの作成と避難訓練等を行いました。今後も防災・減災に向けて取り組んでまいります。

非常用備蓄品の保管

万一の際の地震（津波）、台風、豪雨等の自然災害に備えて、中特グループ100人がいざという場合に3日間過ごすことができる量をBCPの一環として備蓄しています。2023年度は飲料水や非常食の賞味期限に伴う交換を行うとともに、グループ各拠点への配布も一部実施しました。

安否確認訓練

中特グループでは全社員がスマホ活用により、LINEWORK RKSのアンケート機能を利用した安否確認訓練を継続して実施しています。震度5以上の地震が発生したことを想定し、3ヶ月に1回の訓練を行っています。従来のメールやTELを利用したものと異なり、グループ全員の情報を共有できること、短時間で確認できるのがメリットです。2024年8月の台風10号では、地震を台風置き換えて安否確認を実施しました。

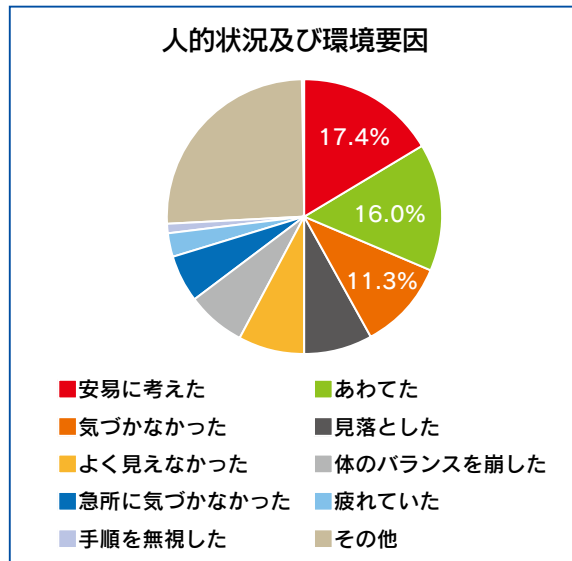
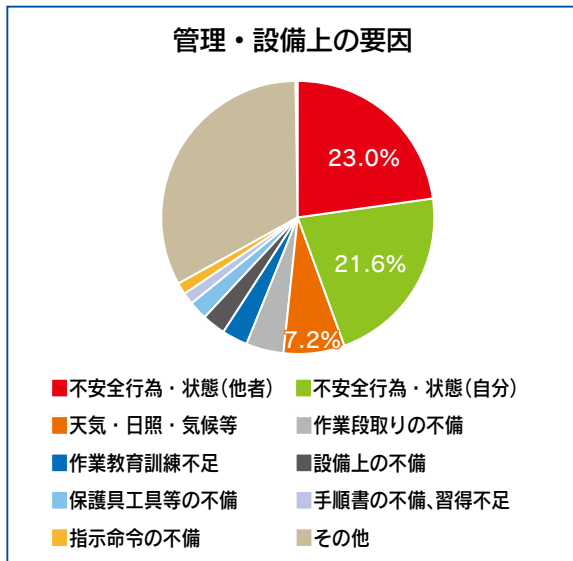
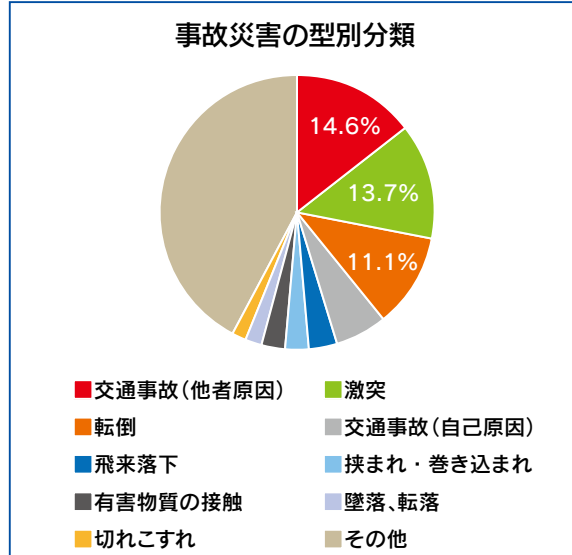
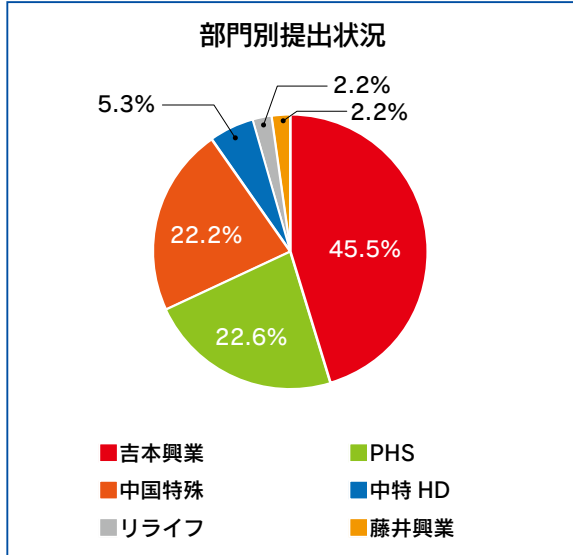
今後も訓練の内容を精査しながら継続し、万一の事態に備えていきます。



ヒヤリハット摘出と対策活動

ヒヤリハットの摘出と対策を実施しています。

2023年度グループ合計で1,610件のヒヤリハットを摘出し、分析と対策を実施しました。「ヒヤリハットのうちに対処することで事故災害を未然に防止する」ことを目的に、ヒヤリをヒヤリと感じる感性を養うべく活動しています。内容は次の通りです。



リスクアセスメント活動

事故・災害を撲滅する手段の1つとして、リスクアセスメント活動を継続して取り組んでいます。

リスクアセスメント講習修了者並びに管理者を中心に、社員全員参加で取り組んでいます。

グループ各社毎の作業における危険源に対してリスクを見直し、①更なるリスク低減の手段・方法はないか？②新たな危険源はないか？（リスク低減策はないか）をメンバーで討議し、安全レベルの向上を図っています。又、2023年度からは化学物質取扱いに関するリスクアセスメントにも取り組んでいます。



㈱中特ホールディングス
リスクアセスメント



◀化学物質管理者講習会

安全ISO45001 サーベイランス審査

7月4日(木)・5日(金)、2年次のサーベイランス審査を受審しました。

不適合はなく、認証継続・維持となりました。

今回は「特定された改善の機会」の指摘もありませんでした。



JBK(事故撲滅研修) &なぜなぜ分析

JBK(事故撲滅研修)

中特グループの現業部門では月1回以上「JBK(事故撲滅研修)」を実施しています。

実際に起こった事故のケーススタディや安全ルール認識テストなどを行い、社員全員で文字通り「事故撲滅」を目指しています。



グループ合同JBK

なぜなぜ分析

中特グループでは、事故・災害や重大なヒヤリハットが発生した場合は速やかに「なぜなぜ分析」を行います。

発生事象をもとに1次要因から3次要因(真因)を掘り下げ、有効な対策を検討・共有することで、類似の事故・災害の防止に努めます。



株式会社興業 なぜなぜ分析

安全相互パトロール& 産業医職場巡視

安全相互パトロール

現業部門に対し、1回/月の安全相互パトロールを実施しています。

パトロールには「環境安全衛生委員会」を中心に多数の社員が参加し、異なった視点から見た気づき(問題点、改善点、Goodポイント)を探して共有します。



中国特殊(株) 安全相互パトロール



株式会社ライフ 安全相互パトロール

産業医職場巡視

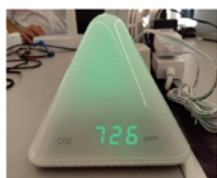
毎月1回の「環境安全衛生委員会」の開催日に併せて、産業医による職場巡視を実施しています。

照度・換気・作業環境・粉塵など専門家の視点で指摘いただき、改善を図っています。



【産業医職場巡視記録】

- 日時 2024年6月11日(火) 15:00~15:30
- 巡視者 山本産業医 同行者: 岩崎
- 対象職場 中特HD 立会者: なし
- 内容・気づき等
 - 中特HD(COIL)内の換気等については、大きな問題はなし。
 - WBGT値の周知を図ったほうがよい。(標示が無理であれば、朝礼時の伝達等)
 - 「目に見えるCO2濃度計」はGood!



各種訓練

消防訓練

6月21日(金)、本社(COIL)の消防訓練を実施しました。

本社(COIL)は不特定多数の方が利用されるため「特定防火対象物」となっており、防火管理者の選任と消防訓練が義務付けられています。訓練では水消火器の使用訓練や排煙設備の操作方法等を学びました。



技能向上訓練

業務遂行における技能向上および部門間の連携維持の為の訓練を適宜実施しています。



(株)ライフ・中国特殊(株) 吸引車操作訓練

誘導訓練

中特グループの業務範囲は多岐にわたることから、使用する車両の特性を把握し、作業現場での事故を防止する為、定期的に車両誘導訓練を実施しています。



中国特殊(株) 車両誘導訓練

緊急事態想定訓練

グループ各社共通、又は特定作業における緊急事態発生を想定し、1回/年以上の緊急事態想定訓練を実施しています。



(株)吉本興業 廃棄物飛散防止訓練

地震(津波)発生時の避難訓練

昨今、地球規模で大規模な地震(津波)の発生や気候変動による局所的な大雨等での浸水や冠水が懸念されています。

中特グループでは、BCPおよび緊急事態想定訓練の一環として、地震(津波)発生時の避難マニュアルを作成し、避難訓練をグループ各社毎に実施することとしました。

「南海トラフ地震」に伴う津波発生を想定し、会社周辺のハザードマップ等を参考にしています。2023年度中に各社1回の訓練を行い、①地震発生時の



地震発生時の訓練

【最新版発行】 8月 | 2024年3月8日

地震・津波発生時避難マニュアル

(※特-COIL、中国特殊、吉本興業、特和興業)

地震が起きたら

- 大きく揺れた瞬間に落下物などから身を守るため、すぐに机の下に身を隠す。 ※安全確保
- 揺れが収まったら建物の外に出る。 ※駐車場に集合、点呼

津波が来たら

- 「津波特別警報」が発せられたら避難を開始する。
 - 避難先：太華中学校 又は 桜木小学校
 - ※避難経路は避難指示の通り
- 津波到達時刻までに40分以上の余裕がある場合は、駐車場内の作業車両を移動させる。
 - 移動先：COIL駐車場

いかなる場合も生命(身)を守ることを優先すること！

※お客様等が居る場合は、原則として一緒に行動する。(慎重する)

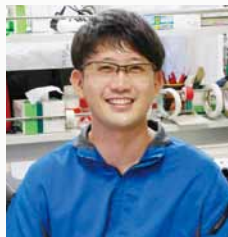


避難場所経路の確認

「身」を守る行動②津波発生時の指定場所への避難行動③安否確認④浸水、冠水に備えての車両退避等を実施しました。

訓練を通じての「気づき」に基づき、随時見直し・修正を行い、いざという時に「生命」を守る行動がとれるようにするため、1年に1回以上の訓練を継続していきます。

第3者意見



独立行政法人国立高等専門学校機構
徳山工業高等専門学校

段下 剛志様

私は2019年4月に徳山工業高等専門学校(徳山高専)に新卒で着任しました。中特グループさんのことを知ったきっかけは、同6月に開催されたテクノ・アカデミア総会です。テクノ・アカデミアとは、産学官の連携による地域振興を推進するために徳山高専が設立された組織であり、株式会社中特ホールディングス(中特HD)さんには会員企業となって頂いております。総会で私が大学院の時に進めてきた研究の紹介をしたところ、最初に声をかけてくださったのが中特HDさんでした。それがきっかけとなり、現在に至るまで共同で研究を進めさせていただいております。私が教員生活を続けていく中で、このご縁はこれからも大切にしていきたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願いたします。

さて、少し長い前置きとなってしまいましたが、この度、第3者意見の執筆依頼を受け、昨年度頂いたCSR報告書を改めて拝読しました。私自身がまだまだ社会人としての経験が浅く、決して有意義な意見とはならないかと思いますが、一教員という立場で感じたことを正直に書かせていただきます。

特集で取り上げられている女性社員の方々による座談会の記録からは、中特HDさんは女性が活躍されている企業であることがよく伝わってきます。私の所属する学科(土木建築工学科)の学生は、およそ4割が女子学生ですが、彼女たちが就職活動をしていく上で、「女性が長く働き続け、活躍しているか」は重要視されることのひとつです。中特HDさんの強みのひとつとしてこれからも積極的に発信していただきたいと思っております。この特集の中で特に私が印象に残っているのは橋本CEOが「男性、女性でなく適性を考えることが大切である」旨の発言をされているところです。私は今年度、学級担任をしているのですが、始業式の日、クラスの学生たちには「これから卒業まで、仲間とともに歩んでいく意識を持つてほしい。その中で自分らしさも大切にしてほしい」ということを伝

えました。橋本CEOの信念は、私が大切だと考えている“仲間とともに・自分らしく”の考えに通じるものを感じます。学校(学生)と企業(社会人)という立場の違いはありますが、ともに生きる仲間がいる点は同じです。仲間と協働する中で、自分らしさを大いに発揮していくことが、自分自身の、そして会社の成長に繋がると思っています。もう一点、現在、共同研究で一緒にさせていただいている社員さんの“いつもの”笑顔も印象に残っています。私も学生からよく「先生なんでいつも笑ってるの?」といったことを言われるタイプなのですが、やはり笑顔はコミュニケーションツールの一つとして大切にしていきたいですし、自分も相手も幸せな気持ちになれる秘訣だと思います。

他にも中特HDさんは出前授業や研修会での講師、周辺地域の美化活動等、様々な社会貢献活動を展開されていることを知りました。これらの活動は是非、今後も継続していただきたいです。ここで、あえて批判的な視点から感じたことを一つだけ申し上げます。それは、NEXT 10 Targetsに掲げられている項目の一つ、健康増進活動推進についてです。ここでは「喫煙者比率」に着目されているようですが、喫煙者＝悪者なのでしょうか? 目標の掲げ方、データの出し方次第で、ポジティブなものもネガティブに捉えられてしまう可能性があるということを留めていただければと思います。健康を増進するという観点では、例えば「適度な運動する時間」等の目標を掲げられてもよいのかもしれませんが。

最後になりますが、私は一市民としても、毎日の生活の中で中特ロゴマークをつけたごみ収集車をみない日はないくらい、よく見かけています。私たちの生活基盤、つまりはインフラを支えてくださる地域の担い手として、中特HDさんのさらなる発展を期待していますし、私自身も共同研究を通じて少しでもそこに貢献できればと思っています。

第3者意見を受けて

ご多忙にも拘わらず、ご意見を賜りましてありがとうございます。

段下様には御校ご着任以来、5年もの長きに亘り共同研究等の面でたいへんお世話になり、感謝申し上げます。

ご指摘いただいた“目標の掲げ方、データの出し方次第でポジティブなものもネガティブに捉えられてしまう可能性がある”という点を常に思考に留め、日々の業務やCSR報告書作成等に活かしていきたいと考えます。

今後ともご指導のほどよろしくお願いたします。

CSR推進室 岩崎 達美

公正な事業と組織運営のために

経営執行組織図

SS 会議 役員会議

ワクワク会議 部長会議

チャレンジ会議 目標進捗会議

(株)中特ホールディングス

未来創造部

CSR 推進室

総務管理部

購買部

CS 営業部

設立: 平成24年4月
 代表者: 橋本ふくみ
 資本金: 3,000万円 社員: 25名
 事業内容: 中特グループ各社の経営
 企画・総務・営業・環境安全に関する業務

エコライフチーム

環境安全衛生委員会

品質管理委員会

改善提案委員会

中国特殊(株)

エコ事業部

- ・eクリーニンググループ
- ・HOSグループ
- ・マネジメントグループ

SB 戦略室

- ・SB グループ

設立: 昭和41年2月
 代表者: 吉本龍太郎
 資本金: 2,000万円
 売上高: 477百万(2023年度)
 社員: 32名
 事業内容:
 一般廃棄物収集運搬業
 産業廃棄物収集運搬業
 下水道維持管理業、建設業
 解体業、浄化槽保守点検業

(株)藤井興業

設立: 平成5年4月
 代表者: 大山 隆
 資本金: 1,000万円
 売上高: 61百万(2023年度)
 社員: 5名
 事業内容:
 一般廃棄物収集運搬業
 産業廃棄物収集運搬業
 貯水槽清掃業、浄化槽保守点検業

(株)吉本興業

環境事業部

- ・スマイルグループ
- ・マネジメントグループ

設立: 昭和41年2月
 代表者: 吉本妙子
 資本金: 1,000万円
 売上高: 249百万(2023年度)
 社員: 24名
 事業内容:
 一般廃棄物収集運搬業
 産業廃棄物収集運搬業

(株)ポータルハートサービス

宇部営業所

設立: 平成30年8月
 代表者: 篠田直美
 資本金: 1,000万円
 売上高: 93百万(2023年度)
 社員: 13名
 事業内容:
 遺品整理事業
 各種片付け

(株)リライフ

リサイクル事業部

- ・リサイクルグループ
- ・再資源化グループ
- ・マネジメントグループ

設立: 平成元年2月
 代表者: 橋本ふくみ
 資本金: 9,500万円
 売上高: 724百万(2023年度)
 社員: 26名
 事業内容:
 産業廃棄物収集運搬業
 産業廃棄物処分業、リサイクル事業



まちと未来をキレイにする仕事。

Chutoku Group

株式会社 中特ホールディングス

〒745-0801 山口県周南市大字久米 3034-1
TEL:0834-25-0606(代表) FAX:0834-25-0607
[東京営業所]
TEL:03-5926-4030 FAX:03-5926-4040

中国特殊株式会社

〒745-0801 山口県周南市大字久米 3078-1
TEL:0834-26-0500 FAX:0834-25-2856

株式会社 吉本興業

〒745-0801 山口県周南市大字久米 3044-2
TEL:0834-25-0423 FAX:0834-25-2939

株式会社 リライフ

〒745-0801 山口県周南市大字久米 3078-1
TEL:0834-33-8685 FAX:0834-25-2856
[下松リサイクル工場]
〒744-0002 山口県下松市東海岸通り18-1
TEL:0833-44-0007 FAX:0833-44-1007

株式会社 藤井興業

〒746-0017 山口県周南市宮の前2-2-12
TEL:0834-63-1294 FAX:0834-25-2856

株式会社 ポータルハートサービス

〒745-0801 山口県周南市大字久米 3078-1
TEL:0834-33-8100 FAX:0834-25-2939
[宇部営業所]
〒755-0045 山口県宇部市則貞2-11-1-208



アンケートはこちらから

